っている地区がある。者の四割以上を在宅で看取 その名は永源寺地区。 滋賀県東近江市に、

三方よし研究会と代表の小鳥輝男医師

高齢化が進み、

という。 間六十 間わず 所に一人の若き医師が赴任 急増したのは、 出した数字である。 わずか一二%にすぎず、 ○年頃までは、 くなり、そのうち約二十五 したことがきっかけだっ 人が在宅で看取られている たという。 だが、この地区も二〇〇 かに四~五人程度だ 人ほどの高齢者が亡 日本での在宅死は 在宅看取りが 永源寺診療 在宅死は年 突

でも二番目に過疎が進んで いる地区だ。ここでは、 滋賀県の 高齢 年 中 は、

いろなことを経験したいとは、在宅医療も含め、いろは、在宅医療も含め、いろ決して希望して来たわけで決して希望して来たわけで があったと花戸医師が言う。 院の最先端の医療をやりた は考えていましたが、 りで来たんです。 療所では四年だけ働くつも その義務に従って、この診 う義務があります。 働かなくてはいけないとい た。ここに来たのには、理由 保険制度が始まった年だっ ら十二年前。 に赴任してきたのは、今か 「僕が卒業した自治医大に いと思って 僻地でも最先端の医療を 最初はここでも大学病 卒業後に僻地の病院で ちょうど介護 たんです」 だから、 最初は

だと考えて 提供することが医師の務め 実際に診療を始めてみ いた花戸医師だ

近江商人の「三方よし」の精神に倣い

「地域

研究会」会員の若き医師は、在宅看取りの現場

一つの病院」を目指す滋賀県の「三方よし

チコミで広がり、在宅の患

大幅に増加した。 者数は六人から七十六人と

花戸医師は在宅でも診療

必ず訊

質問

花戸貴司医師(42)。

在宅看取りの現実を臨場

された医師である。 衣をぬいだドクタ 感豊かに描いた写真絵本シ 輪になって」と題して紹介 山漁村文化協会刊) びと」』(國森康弘著、 ズ『いのちつぐ「みと 暮らしの場でみんなと で、 ー花戸 農

花戸医師が永源寺診療所

判が地域の高齢者たちにク 高齢の患者に 花戸医師の在宅医療の評

ると、 人々の希望ではないと悟る それだけが地域の

には、 闘病生活を送って ことになる。 を抱えた男性で、 したときのことだ。 初めて在宅看取り

戸医師が診療に訪れたとき 脊髄小脳変性症という難病 っていることがわかる状態 誰の目にも死期が迫 いた。 十年近く

療を試みた。 最善を尽くそうと様々な治だった。だが、若き医師は 点滴をたくさんしたり、 ようと考えました。ところ きる限りのことをしてあげ 「ご飯が食べられないから で

患者は を体験 花 て、『この医者はもう駄目

もう十分

たことで

生懸命治そ もう い』という顔をしている。だな。何もわかっていな たが、 食べられなくなっ をしていたんですね。 僕一人が何か場違いなこと のは僕だけだった。 す。それがわからなかった 死を受け入れているんで に闘病や介護をしてきた。 本人も家族も、 着任 何もわかっていな

病院だ

うとしているのに、何を言 れたんです。 (主人は) あかんな』と言わ ろで奥さんが『先生、 が、点滴をしている僕の後 っているのかと後ろを見て 宅医療に魅せられていく。 た花戸医師は、その後、 いがあることを気づかされ療と在宅医療には大きな違 家族に教えられたんです」 のことを僕は患者さんやご 滴をするのが当たり前でし と食べられなくなったら点 在宅では違った。そ 一年目で病院での医

んと考えて答えられるうち に、必ずこの質問をしてお 肺気腫で寝たきりの六十 病気が悪化する前、きち しますか?」 ある。 築いていたことが、 トワ 力となったのだ。

くのだ。

大きな

で、

の近江商人の「売り手 し」の精神に倣い、 「三方よし」とは、 買い手よし、 (病院)

に行かず、

でも、

家族に負担がか家の方がええ 家族に負担が

「できたら、

やっぱり病院

う答えていた。 代の男性は、

その質問にこ

す。 かるからな」

のだ。 りも急増していった 寺地区では在宅看取 7 受け入れるようにし 0 とかするから」 して希望をほとんど 希望は在宅だ。 多くの場合、 いった結果、 永源 本人 Z

会(東近江地域医療連携ネッ に作られた「三方よし研究 フと「顔の見える関係」を 花戸医師は、 地域内の多くのスタッ ク研究会)」の会員で ある。 この研究会を通し 東近江地域

たらどう

たちに必ず訊く質問がある。所の外来でも、高齢者の人

それ以外にも理由がりが増えたのには、

しかし、

在宅看取

毎

日

「ご飯が食べられなくなっ

世間よ かつて 「患者

ングリ

内の情報交換を行っストを作って日常的

定例会以外でも、

×

に地域内

「家が 花戸医師はこう返 なら、 家

れたのは、二表している。 は、 る関係づくりです。 小鳥輝男医師が振り返る。 立の経緯を、 近江地区で働く医療・ 当時、

地域よし」を目指すことを 想の在宅医療を訪ねる短期集中連載最終回。 見られたときに自身の間違いに気づいた。で家族らから「この医者はもう駄目だな」 研究会が生ま

0

人の負担にならな

いように僕らがなん

私は東近江医師会の会長を 介護関係者たちの顔が見え 「この研究会の大きな目的 二〇〇七年。設 代表を務める

現在、

きっかけでした」 の所長の呼びかけが設立の していたのですが 三百十 保健所

会員を持つ会の大きな特徴 ちも多数参加している。・医療・介護関係の職員た だけでなく、 入会している点だ。 行政の職員たちが多く 市役所の福祉 名を超える 保健所

情 報 交

するが、 われる。 はなく、 を超えるという。 ったが、現在では毎回至名の参加者は当初は四十名だ 新人が参加して自己紹介を えるように車座になって行 られるのだという。定例会 って誰かが話すという形で っている定例会。 を持ち回りで変えながら行 活動の中心は、 お互いの顔をよく覚え 会には毎回多数の それぞれの顔が見 車座で行うこと 演壇に立 每月会場

名) 者と家族の名前はすべて仮 佐藤健一さん(56、 例えばこんなケースだ。 永源寺地区に住んでいる 三方よし研究会のネッ クが活用されたのは、 以下

まれ、 ている。 地域医療に様々な変化が生 見える関係ができたことで、 ているのだ。そうした顔が 大きく改善されたという。 ルで頻繁に情報交換をし 在宅医療のあり方も 毎日、 関係者が

大腸がんで亡くなった。 家で商売をしていた富江 の母・富江さん(享年 今年二月、 末期の 患

43

の方がみんな揃って僕を見

じゃなく、

すると、奥さんだけ

近所の人や親戚

あちゃんだった。そんな富は農作業もする元気なおば切り盛りもし、合間をみて かどうか家族は迷った。 高齢でもあり、手術をする ったのは、八十二歳りこと。江さんに大腸がんが見つか 分のことはもちろん、 「本人は『八十二歳やし、 健一さんが振り返る。 たのは、八十二歳のとき。 はもちろん、店の一歳を過ぎても自 そんな富

れたので、本人を説得しま四、五年はいける』と言わ四、五年はいける』と言わまだ若い。手術をすれば『いまの時代、八十二歳は 門を摘出し、 像以上に進行して た の意見に従ってくれまし した。最初は手術を嫌がっれたので、本人を説得しま ていましたが、最後は家族 手術をすると、 人工肛門を付 でいた。肛

「母が自宅での最期を望ん

は、平穏な生活は長くは続 と、平穏な生活は長くは続 し、平穏な生活は長くは続 し、平穏なかった。一年後にがん かなかった。一年後にがん が再発。 と、すでに全身に転移して けることを余儀なくされ いたという。 検査をしてみる

> と思ったんです。がんの進以上続けても、意味がないんです。苦しみながらこれんです。さいかので、途中で止めた たですから」(同前) 行の方がそれ以上に早か 『もう続けるのはつらい ける予定でしたが、 「抗がん剤治療を始めた涂 ました。 ひどい副作 一カ月ほどは続こい副作用に襲わ 以上に早かっす。がんの進、意味がない 本人が

がが、最期をどこで迎えるがだった。 増し、 た。家族にも死期が近づ そこで家族に迫られた決 でし、がんは進行していっその後も日に日に痛みは いることがわかった。

7

たんです。でも、 手術はもうええわ』と言っ

先生から

期がんの高齢者を家で看取ですが、私たち家族は、末でいたのはわかっていたの っていました」(同前) ることなんてできないと思 手術をした急性期病院に

を紹介したという。 と断られ、 はなかった。 く、決してベストな選択で「そのホスピスは家から遠 「末期のがん患者は無理 人院させたいと頼んだが 病院はホスピス でも、 そのと

療が始まった。 た」(同前) 行くしかないと考えましんでいたので、ホスピスにんでいたので、ホスピスに

痛い」と訴え続ける。 のの、富江さんは「痛い、ち合わせの予約をとったも 合わせをするだけでも、 入れるわけではなく、 きな問題があっ 仕方なく、 ホ た。

「いつ入れるかわからない返ってきた。すると、こんな答えがた。すると、こんな答えが 介護保険を担当している、 東近江市役所永源寺支所で 困り果てた健一さんは、

カ月先になるというのだ。 スピスにも大 すぐに

一カ月後に打

病院

築いていたからだ。会で顔の見える信頼関係を会で顔の見える信頼関係を

「特例措置として、 た上で申請日 最悪の

安心感も影響していたのかたら、家にいられるというおかげでしたが、もしかしおかけでしたが、もしかし

きてい 5 た。だから、

知りでツーカーの関係がで 護士さんたちが、みな顔見 マネージャーや看護師、介 先生をはじめとして、 でも、うちの地域では花戸 に早く在宅医療の準備が いことではないと思います。 を前倒しするという方法な ほかの役所でもできな 学備がで こんな

寝ている富江さんの元に、もしれません」(健一さん)もしれません」(健一さん)

で診てもらったほうが も、花戸先生に頼んで在宅ホスピスを待っているより Vi

さんは介護認定すら受けて フもいない。さらに、富江 家に在宅ケアのための機器 は全くなく、 るといっても、 しかし、 在宅でケアをす 介護のスタ 富江さんの "

作業を、 地区では違った。 所仕事に時間がかかるの通常二週間程度かかる。 全国共通だが、 介護認定を受けるには、 ってのけたのだ。 ほとんど丸一日

> なったのだ。 図らずも本人の希望通りに ができなかった。それが

在宅看取りが始まると、

・介護スタッフと市役所のたのか。それは地域の医療 なぜ、 大道さんが振り返る。 そんなことができ

悟してもらっ 場合は家族に全額負担を覚

っが、 ーや看護師、介 して、ケア

きりなしに訪れた。痛みも 親戚や近所の人たちがひ

2

戸医師にずっと診てもらっ江さんは診療所の外来で花さん本人だった。実は、富 きたのだと思います」

なかった。 介護認定

ではり、以前から「最期は 化戸医師に在宅で看取られたい」と希望していたというのだ。しかし、家族に迷いが強かった富江さんは、 いが強かった富江さんは、 は いが強かった 富江さんは、 な おり は い が 強 か ら 「 最期は

アのための機器を搬入するをし、スタッフを集め、ケ だかかるのは

を選択できる

することを勧められる。リハビリク専門! リしかできない。そこで、は一日三十分程度のリハビ を開始するが、 ハビリの専門病院に転院 救急病院で 護の準備ができたので、大です。その間に、家での介リハビリをしてもらえたん 度リハビリ病棟に戻って、 う名目で、

> う言い続けたとい 色々な話をし、 ほとんど消え、

みんなにこ · 5

ありがとうな」

「お世話になって、

本当に

る関係があったからだ。三方よし研究会で顔の見 めてうまく対応できたの

見え は

手術後にもう

スタッフが連携すること

地域の医療・介護・行政

今年八十四歳になる山上

昨年秋に脳梗

す。この施設はこんな設備院を三つ教えてくれたんで「救急病院の担当者が、近

2

た事例は他にもある。 在宅医療がスムーズに

言う。

「救急病院の担当者が、

で、地域内のスタッコ三方よし研究会のな

お

かげ

、このような流れ信頼関係があった

変助かりました」

会の最終的な目的は、地域だ。そして、三方よし研究糖尿病にも適用する計画 のものだが、今後はがんやよし手帳は脳卒中患者だけよし手帳は脳卒中患者だけない。現在、三方が連携し、患者や家族を支ががある。 を一つの病院のように機能 三方よし手帳を使って、

日本の在宅医療は少しず 着実に前進

して る。

1 に)…… ど、様々な試みがあった。 ど、様々な試みがあった。 職種との連携、医療・介護には、地域の医師同士の連携、薬剤師や歯科医など他携、薬剤師や歯科医など他表、薬剤師や歯科医などの現場のでは、地域の医師同士の連には、地域の医師同士の連続が、関係が、医療・介護

つではあるが、

2012.9.27

た。かけない転院でき、 院をわず なり

自宅で看取れて本当に

するかわからない。富江さ ピスの打ち合わせを予 んもまさにそんなケースだ。 高齢者の容態はいつ急変 いた日だったという。

笑っているような、 息をしていませんでした。 さん、早よう来て』と言う 呼ぼうかと電話をしたんで ので行ってみると、 す。すると、 くなってきたので、 た。三日ほど経って息が荒 言葉がおかしくなってき 十日目くらいから少し喋る こともなかったのですが、 て、ほとんど痛みを訴える 夜、最期の時が訪れた。 って二週間が経った日の なった。そしてケアが始ま が正しかったと思うように 「自宅でのケアが始まっ 富江さんのそんな姿を見 家族は在宅という選択 女房が『お父 何とも 先生を すでに

> 介護を受けて 塞を発症し、 静夫さんは、

いる。 現在は在宅で

手足の動きがおかし

と人材が整っているとか、

考案した「三方よし手帳」

また、三方よし研究会が

が可能となったのだ。 からこそ、このようなの見える信頼関係があ

要がある」

との宣告を受け

すぐにリ

くれたんです」

からどこが良いか選ばせて

性期病院からリハビリ

病急

そして在宅医療

る。三方よし手帳とは、 も大きな役割を果たして

後、半身不随も覚悟する必 脳梗塞と診断された。「今 思って救急病院を受診し、

色々教えてくれて、その中あるとか、施設の情報をどのくらいリハビリ時間が

一さん) よかったと思います」(健 言えない満足そうな顔をし ていました。母の希望通 その日は、 しくもホ

域

地域内

力

のことだ。

ズに行う目的で作成され

た

体で共有し、

転院をスム

脳卒中患者の情報を地域全

は決してめずらしいことでは決してめずらしいことではない。しかし、三つハニとで となど、ほとんどない。の中から選ばせてくれるこの中から選ばせてくれるこはない。しかし、三つの病 希望通りのリハビリ病院に 静夫さんは救急病 か二週間で退院、 一日二時間ほど ビリ を続け

ら確実に介護が必要になっないのですが、家に帰ったったら退院しなくてはいけ で、明夫さんが言う。たと、明夫さんが言う。 をすることになるのだが、なる。その後、在宅でケアなる。との後、在宅でケア んが見つかり、同病院内のハビリ病院での検査で胃が ところが、静夫さんはリ その とな

霊芝ご愛飲の皆様に、おトクなニュースです!

日本をはじめ、アメリカ・中国の州、国立大学でも

よいものだからこそ長く愛飲してほしい、そう考えたから

この価格が実現しました。三十年以上にわたる科学的研究、栽培実績の成果を結集したのが「飛騨霊芝」

です。その品質は国内・海外で高く評価され、研究用 霊芝として採用されています。※「飛騨霊芝」は商標です

から長期愛飲者にこそ、自信を持ってお勧めします

・・姿・きざみ・粉末等ご要望に応じます。・・開封前、着後7日間は返品可(返送料申込審負担) 第一薬産株式会社 〒506-0003

1kg@3930,000円

500g 17,000円 各根及/送料無

☐ http://www.dai1-vakusan.co.ip/

し<u>m0120-32-0963</u>

45

ご注文

在宅で看取ることが決ま

一番喜んだのは富江